

テーマ

高齢者 平成27年度漢方医学講座・臨床講座

高齢者には漢方を

明治薬科大学臨床漢方研究室

矢久保 修嗣

(平成27年11月15日収録)

1. 高齢者に対する漢方治療を考える

高齢者医療における漢方治療は重要な役割があると考えられている。その理由として以下の4点が指摘されている(表1)。

表1 高齢者医療における漢方治療

高齢者には著しい個人差がある

暦年齢ではなく、実際に患者さんをみたところの生物年齢が重要になってくる。それゆえ、個の医療が必要になる。漢方はテーラーメイドでいろいろな方剤が用意されており、個の医療が可能である。

加齢により生体の機能が低下しており、薬物代謝機能も低下している

漢方薬は食物やスパイスに由来するものが多く、安全性が高い。

高齢者にはいろいろな症状、いろいろな疾患がある

現代の医療では、一つの疾患には一つの治療薬が対応しており、症状や疾患が多いときには薬剤がそれに応じて増え、ポリファーマシーとなってしまふ。それによる副作用発現の問題が指摘されている。漢方薬はいろいろな生薬を合わせることで、副作用を減らしていくことが歴史的に行われてきている。また、1剤で多愁訴に対する治療が可能である。

高齢者では完全な治癒が望めない

ならば、症状を改善して生活の質(QOL)を維持していくことが重要になる。漢方は患者さんの症状、症候をよくしていくことを目標に治療していく。

以上のことから、高齢者医療において漢方には重要な役割があると考えられる。

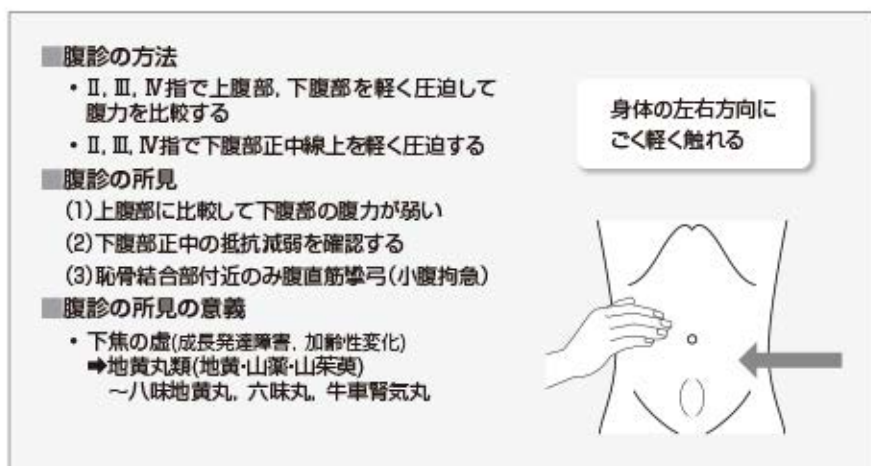


図1 小腹不仁

2. 高齢者の病態を漢方医学的に考える

高齢者の病態を漢方医学的に考えてみると、以下の症候群とも考えられる。骨粗鬆症、腰痛、坐骨神経痛、頭痛、頭重感、耳鳴、白内障、記憶力の低下、皮膚・粘膜の萎縮・乾燥、排尿障害、頻尿、下半身の冷え、口渴などの症状がみられる。冷えでは、通常では口渴をとまわらないが、高齢者では冷えても口が渇くという特徴がある。

このような症状のある人の腹診をすると、小腹不仁の所見がみられる。加齢現象が関連するような症状などからは小腹不仁症候群と言いたくなるような所見であり、フレイルやサルコペニアを考えたときに、まさしくこの小腹不仁を中心とする症候群そのものと考えられる。

小腹不仁の診かたは、上腹部と下腹部の違いをみることが重要である(図1)。上腹部の力に対して下腹部の力が弱い。下腹部の感覚がにぶいこともある。あるいは、下腹部正中だけの抵抗が減弱している。これを小腹不仁という。下腹部だけの腹直筋の緊張がみられる所見を小腹拘急という。これも小腹不仁症候群にまとめることができる。

◆高齢者にみられる腰痛、夜間頻尿に対する八味地黄丸投与の症例

【症例】 72歳・女性

【主訴】 腰痛、夜間頻尿

【現病歴】

15年前より腰痛があり整形外科通院中。変形性脊椎症と診断され湿布や鎮痛薬が投与されている。腰痛は入浴したり温めたりすると軽快する。最近、夜間に排尿のため3～4回起きるようになった。このため熟睡できない。足が冷えるので、湯たんぽを手放せない。でも口は渇く。

【身体所見】

舌はやや腫大、淡白色。白く薄い舌苔、脈は沈・弱、腹部の腹力は保たれている。明らかな小腹不仁がある。

【経過】

胃腸が悪くないのであれば八味地黄丸の使用を考えた。しかし胃腸障害の副作用が心配なので、ツムラ八味地黄丸エキス剤5.0g/日(分2、食後)より開始した。2週間後には「内服できる」ということなので、7.5g/日(分3、食後)として継続した。4週後、「少しは冷えはよい」ということで継続中である。

●八味地黄丸とは

組成は、地黄、山茱萸、山薬、牡丹皮、茯苓、沢瀉、桂皮、附子の8つの生薬である。地黄は、ツムラの漢方方剤128処方の中の22処方に入っている。地黄には抗加齢作用や強壯作用があり、これに加えて、血虚(痩せてくる、栄養状態が悪くなる、皮膚がカサカサしてくる)を治療するために使われる。地黄にはstachyoseやcatalpolが含まれている。Stachyoseには胃排出能の低下作用があり、胃もたれの原因になる。Catalpolには瀉下作用があり、下痢の原因になる。胃腸系が弱い人には使いにくいことがある。はじめて地黄の入った方剤を使うときに、いきなり3包/日を食前または食間という使い方をしないで、少量かつ食後というように使っていくようにしている。患者さんは1回でも嫌な思いすると、のまなくなるので注意している。